

# 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会

## リスクファイナンス部会（第1回）の概要について

- |   |      |                                      |
|---|------|--------------------------------------|
| 1 | 開催日時 | : 平成 29 年 7 月 18 日(火) 15:00~17:00    |
| 2 | 場 所  | : 関西広域連合本部事務局 小会議室                   |
| 3 | 出席者  | : 久保英也委員、小林健一郎委員、瀧健太郎委員、湧川勝己委員(50音順) |
| 4 | 議 事  | : 課題と解決策及びシミュレーションの方針                |

### <部会の調査、検討の進め方>

- 対象とするリスクを明確に定義し、関西広域連合が誰に対してリスクのどの部分を対象にした経済的支援の施策を考えるのかを整理し直す。
- リスクは、災害直後の効用の落ち込みだけでなく、復旧までに要する時間を考慮したものとして考える。
- 対象とするリスクを確定した後に、経済的支援の方法として保険、CAT ボンド、フェニックス共済の充実などを検討する。
- 経済的支援制度の対象を、自治体とするのか個人とするのか、また、淀川流域に限定するのか関西広域連合構成府県市とするのかを整理する。
- 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会の議論の中では、平成 25 年の台風 18 号の時に下流を守るために瀬田川洗堰を全閉したこと、中流部で内水排除ポンプを止めたことに配慮するための上下流相互扶助制度の必要性の検討、広域行政の役割としてのアメリカの洪水保険制度のように保険の料率を使い土地利用の誘導の検討が挙げられた。しかし、今後、部会の中での議論により、より社会的にプラスになる制度が提案されることも考えられる。
- 平成 25 年の台風 18 号に対する上下流相互扶助の考え方とさらに大きい台風への対応の考え方を 2 段階に分けて、対応を整理する方法も考えられる。
- 対象とするリスクの定義にあたり、滋賀県で既に計算済みの結果をもとに、被害額の期待値、生値を算出し、経済的支援制度でどこまで対応可能であるかを試験的に見る。
- シミュレーションは、リスクの定義から経済的支援策の考え方までをある程度整理した後に、小林委員の数値モデルにより行う。